

第3回 滋賀県社会教育委員会議における会議概要

期日：平成23年7月11日(月)

場所：滋賀県湖南市立石部小学校

1 開 会 日程説明

2 内 容

- (1) 学校支援に係る取組活動の見学について
- (2) 学校支援に係る取組活動についての協議について
- (3) その他

3 閉 会

<出席委員（五十音順）>

宇野委員、神部委員、木ノ内委員、千歳委員、富山委員、納谷委員、野一色委員、西村委員、野口委員、松浦委員

<出席者>

谷口茂雄（石部小学校校長）、広部 武（「学校応援団」代表）、向井美江（石部小学校コーディネーター）、高木和久（湖南市教育センター教育研究所長）

神部 滋賀県社会教育委員 委員長挨拶

【委員長】

社会教育委員長の神部でございます。現在、滋賀県社会教育委員会議では、「園・学校を拠点とした地域連携による生涯学習の環境づくり」というテーマのもと、いろいろと調査・研究をしているところで、今までに2回アンケート調査というのをやってきた訳です。1回目は、全ての園・学校を対象にアンケートを実施し、2回目は団体・グループを対象にアンケート調査を実施して、学校と地域が一緒になりどうやって子どもたちや社会教育・生涯学習を盛り上げていけば良いのかということの議論をしているところです。そうした中で、本日訪問をさせていただきました石部小学校、後日訪問をさせていただく堅田小学校の両校とも県下有数の先進的な実践をされておられる所で、私どもも見聞きさせていただく中で、こうした「園・学校を拠点とした地域連携による生涯学習の環境づくり」に向けての一つの方向性というようなものを模索していければと思っております。石部小学校の谷口校長先生、「学校応援団」の広部代表、向井コーディネーターさんには、本当にご多用の中、お世話になりますどうかよろしくお願い致します。



<日程の説明>事務局

○本日の日程について

お手元の【資料2】のP4に記載していますように、先ず、この「学校応援団室」のご説明をいただいた後、体育館で支援の内容を見学いただきます。その後、図書室に移動して、石部小学校での学校支援のお取組についてお聞きし、質疑・応答の時間を取らせていただきます。

終了は、15:10を考えております。
○お手元のレジメの【資料1】ですが、今迄に実施しました『第一次アンケート』『第二次アンケート』の概要について記述をしております。

P3の上は、『第二次アンケート』で「自主的な組織がない」とした回答について、とりわけ「支援を受けなくても教育活動ができている」や「支援をお願いすると今以上に負担が増える」の回答が若干あったもので、10月までに事務局が内容聴取を考えております。

なお、今回の「見学・ヒアリング」のポイントですが、石部小学校は、10年前から「図書ボランティア『このゆびとーまれ』」が、16年前から「子どもたちふれあいボランティア『いしべっこ』」がありました。ここに、平成20年度から文部科学省委託事業の「学校支援地域本部事業」が導入され、今までの事業と新事業とも併せて、コーディネーターさんがコーディネートをしていただきます。表の一番下にあるように、コーディネーターさんの運用・活用が「特色ある取組・内容」となっております。



会議の概要

(1) 学校支援に係る取組活動の見学について

昼休みを利用して、「竹とんぼの会」のメンバーが学校に来校し、竹とんぼの完成品と竹細工を持参し、体育館で子どもたちが活用できるように準備されました。子どもたちは、竹とんぼを昼休みに会員の指導のもと距離がでるよう飛ばし方を習いながら遊びました。

また、楽器の演奏が可能な学生ボランティア男性1人（トロンボーン）と女性1人（エレクトーン）に来校してもらい、素敵な演奏を披露していただきました。児童はその演奏に合わせてタンバリンや鈴を利用して曲を盛り上げようとしてました。児童にとっては、つかの間の地域の方（支援ボランティア）との触れ合いであった。





(2) 学校支援に係る取組活動についての協議について

【事務局】

今日の研修会の意見交換、感想交換を含め会議を進めて参りたいと思います。ここからの進行につきましては、神部委員長の司会・運営でお願いしたいと思います。

【委員長】

それでは、後半の部を進めさせていただきます。後半は、石部小学校の学校支援の取組の状況について3名様からいろいろとお話を聞かせていただいた後、委員の方々から、今日前半に見ていただいたの感想、ご意見・ご質問をしていただき交流をいただけたらと思っております。

それでは、早速ですが、石部小学校の説明を宜しく御願ひ致します。



【石部小学校】

「学校応援団」のことについてプレゼンテーションソフトを使って説明します。この会場は普段図書室として使っておりまして、現在本校は、会議室を持っておりません。校舎入って来ていただいて、最初委員の皆さんにご集いただいた部屋が本来の会議室でしたが、「学校応援団」を立ち上げ、ここに事務局を置いたために、会議やPTAの会議などは全てこの図書室を使っております。

埼玉県議会の文教委員さんたちに来ていただいた時や他からの訪問がある場合は、この場所で説明をさせていただきます。どうか宜しく御願ひ致します。

それでは、子どもの活動の取組についてご説明をさせていただきます。今日は、県の社会教育委員さんが参観になるということで、時間割を入れ替え、また本来月曜日にはありませんが、この日のために応援団の人に支援いただくスタイルを取りました。また、学生ボランティアさんは、通常は体育館ではなく、「学校応援団」の事務局でピアノを弾いたり楽器を鳴らしていただき、子どもたちが「学校応援団」の事務局に行き集まることになっております。

石部小学校は、「学校応援団」という事務局を持っているということが1つの大事な点だと思っております。本日は、どのような様子かということを見ていただきたいということで、学生ボランティアさんの活動も体育館でやってもらいました。

竹とんぼですが、「スーパー竹とんぼの会 湖南」という団体名で、竹とんぼだけに特化したボランティア団体です。今日は30組の竹とんぼを用意していただきました。普通それだけ用意したらいくつかが余るものですが、今日は、学級担任が来客があるということで、体育館へ遊びに行くようにとの話があったのではないかと思います。私は、天井ばかり気にしており、特に、上の窓を開けず暑い中・蒸せかえる中で活動をしていましたから熱射病・熱中症にならないか、そちらの方が気がなっておりました。

それでは、お手元の資料で「応援団の説明」について5つ用意しました。1つ目・2つ目と簡単に説明しまして、「4 石部小学校の取組」を中心に話をします。

新聞の記載内容で、「匿名社会の到来」や「だてマスク」のように、顔を見せず、拒絶する社会になっているのではないかと思います。「少子高齢化」「孤独死の問題」、また「孤族」という言葉を使う新聞があったりして、現代社会の問題点が報道されて居るわけですが、私は、子どもが育つ場を次のように考えております。



「学校」「家庭」「地域」「社会」で、「地域」と「社会」は子どもに近いか、子どもにとって取り巻きが大きいかということで区別しています。「学校」という所は、「学力を付ける」「社会性を付ける」ということが期待されている社会的装置であります。また、「家庭」は、コミュニケーションの育成や生活習慣・生活の躰を身に付けていただくということで作りましたが、この図については、PTAの総会などでも保護者に見ていただき理解を得ております。

ふるさと意識や地元意識、本校でも自尊感情を大事にしておりますが、それを育てようとしてますと家庭・地域・学校が『育ちのトライアングル』をしっかりとしていく必要があります。学校は『つなぐ』という役割を新たに背負う必要があると思います。私は、単に学力や社会的ルールを身に付けさせるだけではなく、地域の人と顔見知りになり、「つなぐ」という活動を学校が担っていくことが、これからは期待されていると思います。校報の「いしべっこ」は、私が赴任したときに第1号で、全世帯に配布しました。要するに、地域の中で子どもを育て、子どもたちの育ちに一生関わってもらう。もう一つは、自信の持てない子ども、自尊感情という観点から言いますと、子どもたちに自信を持たせることが必要で、日本というのは、データから言いますと「自信の源泉」が低い。「自分自身への満足度」が低い。「家庭生活の満足度」が低い。「学校生活の満足度」が低い。「21世紀は希望に満ちた社会になる」という意識が低い。「能力をもって努力すれば成功するという意識」も低い。「将来の自分はより立派になる」も低い。高校生の調査で、「日本の高校生は悲観的」という調査結果でした。それは、「自分はダメな人間だ」と思うことがあるや「あまり誇りに思えるようなことはない」が高い数字となっています。「計画をやり遂げる自信がある」は低い回答となっています。以上のことから、「自信を育てる教育」をしていこうというのが、石部小学校の取組であります。

石部小学校は、より良い生き方を求める実践力をテーマにして、文科省から2ヶ年間の「道徳」の指定や「道徳推進地域」の2ヶ年間の指定を受けて、「道徳」を窓口にした実践をしております。このことを基盤に「規範意識」と「自尊感情」ということから詩の暗唱などの言語感覚を磨く取組もしています。委員の先生方には、クリアファイルとして『チャレンジ100』というものを付けました。各々のこどもが「読書100冊」や「お手伝い100」「友達の名前を100人覚える」などもあり、100に係るいろんなことを自分で目標を立てて取り組んでいます。このことで、道徳感覚というものを培っていますし、「学校応援団」も関わっていただいております。「学校応援団」の事務局にはピアノが在るわけですが、あのピアノは、大正時代の神保里多さんという方が行商で稼いだお金をピアノという形に変えて寄付してくださったものです。近年まで、使うことがなく、今まで音が出ませんでした。春に調律をしてもらい鳴るようにしてもらいました。あそこでチャリティコンサートをしようということで「学校応援団」にも協力をしてもらっています。また、学校応援団の取組の地域資料の中で、後で述べます、「東日本大震災」とのつながりも出てきております。これは、学校経営方針であり、学校で具体的にこういうことを頑張っていこうとすることを「学びの土台」「こころの土台」「くらしの土台」とし、そしてこの上に6つの柱で頑張っていこうとしています。そういうことを支えていただこうとするのが「学校応援団」なのです。

○「学校応援団」の取組

「学校応援団」の取組について簡単に申し上げます。平成20年の5月14日に、「立ち上げ準備会」に集まっていた時の写真であります。平成19年度末に「学校支援地域本部事業」の募集がありました。その時は、私は、前任校の菩提寺小学校という所に居て、もう転勤するということが分かっていたから本事業に希望をしませんでした。しかし、石部小学校に来たら追加募集がありましたので手を挙げ希望した訳です。手を挙げたのですが、その時はまだ当たるとか当たらないとは分からなかった時でした。湖南省の教育委員会も、もう一つ湖南省の岩根小学校が湖南省からは指定を受けているので、同じ市からは無理だということで、来年度に向けて、名前だけ少しアピールしておこうではないかということで、駄目もとで手を挙げ、この写真のように区長さんに寄っていただきました。教師は5～10年したら転勤で変わる訳ですけれど、地域の人が子どもの育ちを支えてくれるようなものを作りたいという思いがありました。



さて、先程の、文部科学省の「学校支援地域本部事業」は、当たるか当たらないかは分かりませんが、こういうものを立ち上げたいということのお話しをさせていただきましたら、区長さん方が大いに賛同していただきました。そういうことをやるのであれば力になってやろうということで、準備会議を5月と6月にしました。7月には、追加の指定を受けるということで、またどういことをするかも分かっておりませんでした。8月に立ち上げ式をやりまして、教育委員会からも来ていただきました。お金をかけないということで、「石部文化ホール」のロービーを借りて、車座になり、「学校応援団」では、どういことができるのかということで話し合いました。そうしたところ、見守り活動、声かけ運動をやっていこうじゃないか。また、そういうことをやっていく中で、最後にはつながりができれば良いというお話しをさせていただきました。グッズというのは、自転車のカゴに付けるようなものと、そして帽子です。これを自治会長にて渡すということ、商工会、老人会などの団体の代表の方にお渡しして、9月から見守り活動を始めていただきました。帽子など今までになかったものが、こういう帽子だとぱっと色が変わりますから、急に学区の彩りが変わったという印象を受けました。

活動内容としましては、岩根小学校が一番早くスタートして、次に石部小が続いて、今年は、湖南省では全ての小学校で立ち上げることになっています。事務局は、はじめは総会と本部役員会だけでやろうとしていたのですが、本部役員の方々が、月1回集まろうということで、年4回だけ集まりパッと話し合っパッと決めてというスタイルから、毎月集まっっていく中で考えていこうというものになりました。

具体的には、図書館ボランティアというものも「学校応援団」で一緒にしていこうという話になりました。石部小学校の図書館ボランティアは、「学校応援団」を立ち上げる前から活動され古くて独自活動もきっちりできています。

さて、事務局に入っていた所にこのようなものがあつたと思いますが、私は、この場所が一番大事だと思っております。現在の場所は、児童昇降口をも隣の棟の窓から見てもらっておりますし、事務局員さんも常駐してもらっておりますので、大変ありがたいと思っております。現在、石部小学校は、創立137年目でありますから、学校への出入りはスカスカでありまして、門を閉めてもどこからでも入れる状況にあります。ここは、生活道路ということで住民の方が、道路として使っておられますから、「どうぞ通ってください」ということで、事務局員さんに対応をしております。

「学校応援団」室は、会議机が並べてあつての部屋でした。広部会長さんやコーディネーターさんには、応接セットを入れてもらったり、またこの部屋で作品展をやったりしてもらっています。応援団の方がこういう物を作っくださったりして、だんだん部屋の雰囲気も変わってきました。展示会や展覧会をやることにより、子どもが来るようになりました。今日は「竹とんぼ」でしたので体育館を使いましたが、「お手玉」とか「あやとり」というものでしたら、

事務局でやっていただいております。また、支援員さんには、この事務所で作業をしたり、休憩をしてもらったり、会議に使ってもらったりしています。そして、事務局員さんが常駐しておられることが「学校応援団」の活動の大きなポイントであると思います。



顔見知りになる活動として、いろいろな活動をしております。特に、「まちづくり協議会」などが、学校の3つ目の役割『つなぐ』という

中で行っております。どこでもやっておられることなのですが、これが、帽子をかぶって急に成長をしました。かつては、安全委員さんが1日・15日に交差点等に立っていてくださいました。今はずっと立っておられることにより、町の色がやっぱり変わりました。下校時にも立っていただいているのですが、学校側では、続けていただけるように立ってほしいということ、〇〇日に立ってほしいとか毎日立ってほしいよとは言わせてもらっておりません。地域の中では、自転車で5～6分かかる所からやって来て立っていただいている。また、他の方では、家の丁度前で立っていただいている。学校としては、できるところでできる活動をしてほしいということでお願いをしております。「ふるさと石部学遠足」ということで、ふるさと意識が伝わるということで、警察の方や学校応援団の方などがいろいろ協力していただいております。2年目ですね、去年は山の中を歩くということで、山道を切り開いてくださり、また雨の中を道路に立っていただきました。また、「ラジオ体操」ですが、はじめは子どもたちだけでやっていたのですが、そこへ保護者が何名か入っていただいた状態でした。校報などでも呼びかけていただいたり、また応援団の方々も呼びかけていただいて、たくさんの方々が入っていただくラジオ体操になりました。校報の中でも「地域の教育力は、協力力」ということで昨年お誘いをさせていただきました。今年もこれ以上に参加してもらおうとのことで、地域の方をお願いをしました。しかし、地域の方の中には、6年生が上手に体操しておらんとという指摘をいただきました。調べてみると、特にラジオ体操第2ができないのが分かりました。そこで、水泳の事前体操は、ラジオ体操の第2を中心にやるよう指導している訳であります。特に、先輩が後輩に伝えていくようにも伝えております、

去年からやっております「安全標語」は、今年もやります。「交通安全・自転車教室」は、かつては、校庭とか安全な歩道のある道路でやっていたけれども、それでは実践的ではないということで、自動車が通る道路で実施します。特に、安全確認をやります関係で、学校応援団の方や警察にも出ていただいて、小さい子どもたちは、そういう姿を見るということで充実した取組となっております。自分たちで手作りの道具を作ったりしていますし、学校長まで動員される事業となっております。

「菊作りボランティア」では、今までは菊を育て、ただ並べておいただけですが、今は菊の鉢に作った方の写真を撮らせていただいて写真を貼り付けております。この写真の方がこの菊を作ったよ、教室の中とか廊下とか並べています。そうすることで、菊づくりのおっちゃんやというふう子どもたちの話題となっております。

成果と課題であります。会議形式が定着してきましたし、また、いくつかのボランティアの活動も定着してきました。また、「学校応援団」の活動が知られるようになってきました。情報発信としては、「校報 応援団だより」を、PTAに配布（白黒印刷です）するだけでなく、全戸配布をしていただいております（白黒印刷です）し、新聞折り込みも新聞者の御協力です。2種類の新聞で石部地域と一部石部南学区に入れてもらっております。紙がもったいないという声も聞いておりますが、PTA・自治会に入会しておりそして当該新聞をとっている人は3枚の校報を持っていることになるのです。しかし、私は、PTAや自治会にも入っていない、当該新聞をとっておられない人は、まだ「学校応援団」については知らないということになると話をしております。まだ、知らない人もいるからこそどうすることが大事なんかないことを伝えております。また、人が集まるような理髪店、お医者さん、食べ物屋さん、銀行などにはクリアファイルを預けておきまして、カラーで「学校応援団」の取組を綴じさせていただきます。待合室などに置さしていただくと同時にホームページなどで情報発信を

続け、随分と知ってもらえるようになってきました。

「学校応援団の旗」は、作っていただき、運動会の時も旗が立っていますし、いろんなところで「学校応援団の旗」を掲げていただくことができるようになってきました。

「つなぐ活動」というものがすこしずつですることができるようになってきました。課題としましても、一つのメンバー拡充と人権費が平成22年度末まででしたが、解決をしました。これは、湖南省の方が予算化をしてくださり、コーディネーターが常勤になったことによるものです。



関係性の問題、認知度を高める。私としては大事だとするのは、学校として「つなぐ」という活動を特に重視していきたいと思います。学習ボランティアだけでなく、顔見知りになり「つなぐ」ということから、一緒に活動してくださる「クラブボランティア」をたくさん作っていくことを一つ目としています。こういう参加も必要であると思います。行事の中で、子どもが参加する歌のために大人が参加するだけでなく、子どもと大人と一緒に練習して、その場で一緒に歌うという取組を大事にしていきたいと思っています。

二つ目は、「地域企業との連携」です。今年からやり始めてるところですが、地域にある企業の活用です。今やっているのは環境学習にかかわるバス代を半額にしてあげようとか、環境学習に係わる教材をいくつか提供もしていただきました。宮川という川がありまして、その清掃活動を通じてホテルが来る川にしていこうや、学校としては、その川の指標生物を調べたりなどして、「総合的な学習の時間」を通じて地域と連携していこうとしています。

この間も東日本と「つなぐ」ということで、進めている内容についてテレビを見たよと言っていたのです。この方と私が知り合ったというきっかけは、先程少し申し上げた道徳の地域資料を作ったときのことなのです。石部小学校が「道徳」の地域資料を作ったということを知りつけられて来られ、私が「道徳」のこういう研究をしているのですというところから知り合いました。この方が、南相馬市にボランティアに行っておられる時に、是非体験談を子どもたちにしゃべって欲しいと頼んだのです。

長い紙や布に石部小学校の児童がメッセージを書き、空いた所に南相馬の原町第一小学校の子どもたちが絵や言葉を書いて完成させる作業を、本日午前中に鈴木靖将さんの働きかけにより実現しました。

もう一つは、教職員が替わっても継続する応援団組織を作る必要があります。先ず、今年は私が替わります。校長が替わっても、学校応援団組織は続いていくことが大事です。今はそういう取組をしているところであります。例えば、見守りボランティアは150人ぐらいの多くの方が係わってくださいますが、全部の人が集まることはありません。何人かが集まって行うことはあっても、見守りボランティアや学生ボランティアも全員が集まることがない。しかし、図書ボラはそれができるのです。そうした組織を作っておかなければだめなんじゃないかと思っています。

最後に、地域の教育力は『協力力』だと思います。私は、学校力というものは教師力と子ども力だと思います。教師力の中身は、「授業力」「対話力」「感受力」。子ども力というのは、「生きる力」と言われています。この2つで、学校の雰囲気などが決まる。しかし、学校には、それを取り巻く地域というものがあまして、地域力があります。地域力には、地域の風土を形成したりする自治会力と保護者力とがあるのではないかと思います。私は、大事なのは、「協力」であると思います。それは、学校にどうやって協力していくかじゃなくって、地域の中でどう協力するのか、保護者の中でどう協力するのか、「つながる」という力が大事であって、地域の教育力というのは「協力力」と言う言い方をしているところでございます。そのた

めに「つなぐ」ということ。栗東中学校の実践ではありますが、地域の大人と子どものきずなが深まっていくことが記事になっています。特に、サポーターをされている方から、生徒たちが地域の行事に積極的に参加するようになってきたという発言がこれからも深まる必要があると思います。

この後は、委員の先生方の質問にお答えをしたいと思います。

【委員長】

御説明をいただきありがとうございました。とても御丁寧な石部小学校の御説明を聞かせていただいた事で、残り35分程度、皆さまから何か御質問・感想がございましたら宜しく御願ひ致します。

先ずは、私の方から、学校支援ボランティアが学校と地域とをつなぐためには、コーディネートあるいはコーディネーターの役割が重要だと言われていますが、コーディネーターはどういう活動をしているのか、どういう経緯でコーディネートするようになったか教えていただければと思います。

【石部小学校】

石部小学校のコーディネーターの向井です。石部小学校ではコーディネーターという言葉ではなく「学校応援団」の事務局員としてお仕事をさせていただいております。

まず、「石部小学校学校応援団」には本部役員会という組織があります。本部役員さんは、区長さん、民生委員、老人会、商工会など地域の代表の方で、月1回程度、お集まりいただき、「学校応援団」の運営について、それぞれのお立場でのご意見を聞かせていただいております。それらの会議の準備をして、みなさまのご意見を聞かせていただくのは、大切な仕事です。

石部小学校では「ふるさと石部学遠足」という全学年児童がいっせいに、石部の町を歩くという行事があります。また、「子どもと一緒にラジオ体操」、「交通安全教室」等、学校応援団に協力いただいている大きな行事が年にいくつかあります。そのような行事の時など各代表である本部役員さんと学校との連絡、調整も私の仕事です。

次にボランティアさんと学校の連絡、調整の仕事があります。石部小学校では、たくさんのボランティアさんが活動してくださっております。その中には組織だって活動しておられるボランティアさんとお一人ずつご協力いただいているボランティアさんがあります。

組織のあるボランティアさんについては、活動はボランティアさんたちの中で決められるので、そのことを学校と連絡、調整したり、活動する際に必要な材料を準備したりします。個人でご協力いただいているボランティアさんについても、基本的には同じですが、ホームページボランティアさんに、ホームページの内容を準備したり、見守りボランティアさんに子どもの帰る時間をご案内する等ボランティアさんが活動しやすいようにするのも大切な仕事です。

また、広報活動も大切な仕事です。ボランティアさんのしていただいている活動を多くの人に知っていただき、「学校応援団」の活動を知っていただくため、月1回程度「学校応援団便り」を発行しております。

ボランティアさんの活動の記録を残すのも大切な仕事と思っています。学校の先生方、また、コーディネーターも変わっていくものです。ですから、いつ、だれにご協力いただいたか、ど



のような準備が必要か、当日のスケジュール、あとの礼状のこと等、次に担当いただく先生の資料として記録しファイリングします。

また、「ふれあいしべっこ」と名付けて事務局で今年度は月一回ほど、昼休みに地域の方と子どもたちがふれあう時間を企画いたしました。

コーディネーターをするようになったのは本部役員会長様から、声をかけていただきました。

【委員長】

「資料3」で前もっていただいていた質問なのですが、「学校応援団」ボランティアさんの研修についてはどのようなものをしておられるのでしょうか。また、学校ボランティアさんの募集に対してはどのように工夫しておられるのか教えていただきたいと思います。

【石部小学校】

まず、研修についてですが、「学校応援団」が独自で企画した研修は、まだ、おこなっておりません。

読み聞かせ等の研修は図書館、湖南省等行っているものが多くありますので、その案内をして、出欠の取りまとめをしております。また、ボランティアさんの中から見学してみたいという声があって、勉強させていただきたいサークルさんに連絡をとって、見学をするということは何回かありました。

募集につきましては度々、募集のお知らせを配るのですが、ほとんど希望はありません。学校の敷居は高いですね。

今年はPTAの方に「年に1回、月に1回ご協力いただけませんか」という案内を家庭訪問の際、担任の先生からお渡しいただきました。直接、一人ひとりに声をかけていただきましたのでお忙しい中、先生方にご協力いただきました。14名のPTAの方が応募してくれました。現在、詩の暗唱、ミシンの調製、学校外への子どもの引率などご協力いただきました。ボランティアをしてくださった方はみなさんよい経験だったと言ってくださいます。こうした小さなことがきっかけとなって、ボランティアの楽しさみたいなものが広がっていったら、と思います。

【委員長】

研修といえますと、図書館ボランティアさんの研修でしょうか。

【石部小学校】

図書館ボランティアさんの研修は100名ぐらいの方が集まるとの研修となっています。

【委員長】

今日見せていただいて結構感動しています。子どもたちの表情や動きを見ると、ああ良いなと思いつつ見せていただいた訳ですが、一番知りたいことは、地域の方々が活動を通じて子どもたちに定期的に係わったり、逆に、ずっと係わっていただけておいて、子どもたちが変わったなあと感じることもあるのか、ボランティアさんの方も学校支援ということで、子どもと係わることで地域の方々の子どもの見方が変わったなというところがあればお教えいただきたいと思います。



あそこだけ鍵が外せ、こちらだけは警備保障システムが入っている状態にしようと考えているのです。

【委員長】

秋津はどうなっているのですか。

【石部小学校】

秋津は別の建物にしておられます。

【委員】

湖南省は頑張っておられるのですね。湖南省は教育長さんが認めてくださり財政も恵まれているのですね。

【石部小学校】

その点は秘密です。

【委員】

今のお話を聞けば、学校側から見れば非常に有意義に組織だっていることが見えてきているのですけれども、「学校を核にして地域の住民が」という部分で会長さんや住民の側から、この活動することによって学校じゃなくて、住民のコミュニケーションがこういうふうによくなくなったか、または問題点が出てきたとかの部分はないでしょうか。

【石部小学校】

石部小学校区というのは、4つの自治体が1つになっておりまして、ここは5,500所帯をかかえております。その中で、「学校応援団」に協力いただく会員は、140~150だと思います。会員になっていただき傷害保険などの対象になる方がそれぐらいの人数になるのです。4人の区長さんが募集をして会員を呼びかけていただいて動いているのですけれども、学校に対して協力せなあかんな、学校にいつペン遊びに行こうかという思いが除々に出てきているなど、学校応援団ができての成果というかメリットというのは出ております。先程、石部小学校コーディネーターが申しあげたように、「学校の敷居が非常に高い」あるいは、「子どもが学校にいてなかったら無関係」という感覚が非常に高いですが、この応援団を立ち上げてからそういうものが少しずつ減ってきています。これが学校応援団、地域のメリットであります。

校長先生がいつもおっしゃられるんですけど、草刈りしようか、缶拾いしようか、ゴミ拾いしようかの中に、子どもを入れ、大人と子ども、地域と子ども、こういう関わりというものは事前に計画をしていかなければ地域を深めていくことはできないと思っています。

【委員長】

会員さん同志のコミュニケーションやつながりなどは、応援団が入ってくる以前の状態を比べると、だいぶゆるくなってきている感じはありますか。子どもと地域だけでなく、地域と地域の大人間同志の状況も知りたいのものです。

【石部小学校】

私は、組織づくりを課題にしているんです。見守りボランティアというもので、見守りボランティアだけが集まって、見守り体制をどうしようかというような話はできません。それぞれの地域でそれぞれの人が見守りをやったださいますが、誰が立っていてくれるかは、年1回



の年度末の総会にならないと分からないのが現状です。学生もそうです。いろいろな内容にいろんな立場の人が学校に来ていてくれますが、一堂に会して自分はこういうことをやっていて、今後こういう活動ができれば良いねという話ができているのが現実です。それが組織的にできているのは、図書館ボランティアだけで、それが今後できると随分改善されると思います。

【委員長】

やっても良いよという集まりはあるけれども、地域同志のつながりというか、そこにまでは行けてないが今後の課題なのですね。

【石部小学校】

本部役員さんが、だいたいこれぐらい集まっていますが、本部役員さんの人間関係づくりも今後重視していかなければと考えています。

【委員長】

組織づくりができないのでしょうか。

【委員】

私も、今、団体の役ではあるんですけども、校長先生と同じような学校の教職員で、20年ぐらい前に岩根小学校に勤務したことがありました。現在、教育研究所の所長さんが、湖南省全体で特に学校をコーディネートしておられるのは非常に大きいと思います。湖南省全体の学校をこんな風にしていきたいんだという強い気持ちを感じますし、岩根小学校、石部小学校、湖南省全体へと広げていただいていることを非常に感じます。学校・園が核になりながら地域の中にも公民館とかいろいろな活動の拠点があります。コーディネートしていただく方、本来でありますと公民館や自治会の中にそういう方がおられると思います。そこで、子どもたちが地域に帰ってからそういう学校のような拠点づくり、学校で取り組んでいただいていることが自分たちが住んでいる地域の中で生かしていただけるのかなど、地域の中にもそのような取組が芽生えていくということがありましたらお教えてください。

【委員長】

広がりというものは、これまで学校だけのエリアだけで立ち上がったものが、逆に地域にフィールドバックされ、地域が活性化していけるようなきっかけにはならないものだろうかというあたりを考えるのですが、如何でしょうか。

【石部小学校】

まだ動きはないんですが、一昨年になるのか私のところにこういうことをやりたいとおっしゃってこられた方がありました。内容は学校から帰った子ども、土・日の子どもを集めて勉強の場を作ったりとかをやりたいというふうに相談にこられた人がありました。それで「まちづくり協議会」の中に持ち込んで、そういう話をされたらどうですかということをお伝えしたことがありました。その人には、次年度PTAの役員さんをやってもらったことから、その話も進めてもらいました。残念ながら「まちづくり協議会」とは位置づけてはやれていませんけれども、今おっしゃるように放課後の子どもだとか、3時30分以降の子どもの姿が問題になっております。どういうふうにやるのかは、学校応援団だけの守備範囲内だけでは駄目です。それは、課題の一つにPTAと「まちづくり協議会」との関係はどうするのかというのがあり、また「まちづくり」の中に位置づけていくことも必要であると考えています。私は、見守りボランティアというのが「まちづくり協議会」の中に位置付けていくと「安心・安全のまちづくり」になっていくと考えています。

子どもの存在に対してそのように位置付けてやっていくのも発想として大事なのではないのかと思っています。

【石部小学校】

校長先生が先程おっしゃったように、ラジオ体操一つ例をあげても、今迄していなかったことを、校長先生に案を出していただいているのが、「地域と子どものラジオ体操」です。これは、PTAのお母さん方以外にも地域の方がこのラジオ体操に来ていただいております。この内容は、まさに地域と学校と子どもとの触れ合いが少しずつ芽が出てきている内容です。私の学区には、約40人ぐらいの子どもさんが小学校にいるのですけれども、それぐらいの子どもさんのお父さん・お母さん・一般の方が朝6:30からラジオ体操に来ていただいております。これは、やはり地域とのコミュニケーションができてきていると思います。

学校応援団との、こういう取組も成果の一つになっておりますし、もっともっと「つないでいく」「続けていく」ことが非常に大事だと思います。

【石部小学校】

その他、子どもの危険箇所の「安心・安全マップ」というのは「まちづくり協議会」の方に作っていただいて去年完成し、石部小学校の廊下に大きく貼られております。これも「まちづくり」の安心・安全部会という中に子ども安全リーダーという方がおられまして、子どもの安全について守ってくださいます。こういうことも活動の一貫となっております。このような方により子どもが安心して登校・下校・遊びができていていると思います。

【委員長】

子どもたちを良く知っているということから、確かにそれが応援団のメリットとなっております。今後は、応援団がコーディネート役となり「まちづくり協議会」と学校とをつなぐなどしくみづくりができるようになると、いろんな広がりや可能性も見られるようになるのかと思います。そうすると今後の課題としてはコーディネーターの必要性になってくると思います。

【石部小学校】

今迄の3年間は、どちらかというと私がやりたいことを「学校応援団」に言って、それを助けてもらい力を借りて、下草刈りなども人を集めてやっていただきました。今年で私は終わりますから、今後、私が力をいれているのは、先程教職員が転勤しても良いという話がありましたが、問題は組織づくりをどうするかということです。石部小学校のコーディネーターもおっしゃったようにボランティアがいろんな募集の仕方を工夫してくれて、会議のレジメなんかは去年までは私が作っていましたが、今年はコーディネーターに作っていただき、かなりの仕事が随分とコーディネーターへ移ってきています。その中で、仕事とかは、学校の下請けではなく学校応援団は、こういうことを考えているんだけど、「まちづくり協議会」と連携をしてくださいたいというような話になってきています。「学校」－「まちづくり協議会」－「応援団」というところのウェイトがもう少しバランス良くなってくると学校応援団の主体性が出てくると思います。そのためには部屋の鍵が問題です。

【委員長】

前例を作っていただけると良いのでしょうか

【委員】

岩根小学校はどうなんですか。

【石部小学校】

岩根小学校での鍵は、コミュニティハウスのものを自由に持てるようになっています。

【石部小学校】

地域との連携で、「夢づくり石部さん」という団体がいらっやって、湖南省や石部の地域の歴史とかを調べたり伝えたりする団体さんなのですが、その団体さんとは連携して何度か一緒にさせていただいたんです。これからの課題としては、年に一つずつでも連携して何かができればと考えております。

【委員長】

時間が来ていますので、これだけは是非とおしゃる方はお出してください。

【委員】

地区公民館との関係はどうか。

【委員】

ボランティアさんがいるのはここだけですか。他の小学校はどうなのですか。

【石部小学校】

湖南省の全ての小学校に配置されており、「まち協」「まち協」と言っているのはこれなのです。

【石部小学校】

今は公民館という名前がありませんので、「まちづくりセンター」になっていますので、よって、まちづくり協議会が連携することとなっています。

【委員】

私は、親が仲良かったら、子どもも仲良くなるので、折角の組織ができているのだったら、なかなか県の人を前にして言いにくい部分があるんですけど、一緒に食事をしながらコミュニケーションをしたりすると、組織としてももっと活性化するので、そういうソフト的なことができるの良いのかなぁと思っています。折角ハード、システム等、校長先生が良いものを作っていたら、続けていって欲しいと思いますし、全体に広がっていけば良いと思いました。それを支えていくために。会長さんベースがコミュニケーションを広げていただければ素晴らしいのかなぁと思いましたし、ボランティアさんでゆっくり食事をするとかも必要だと思います。頑張ってください。

閉会

【委員長】

長時間に渡って貴重な時間をお取りいただきありがとうございました。今日、本当に我々良い体験をさせていただいて、また生の実際の活動、取組をお聞かせいただいて、だいぶ具体的にこういう活動をこういう風にすれば良いのか、こういう良さがあるってこのあたりをもう少し考えてやっていけば良いのかなぁと改めて考えさせていただいたような感じでございます。

こうした今日の、皆さま方と話あったことを今年度末に報告としてまとめさせていただいて、活かしていきたいと考えております。それに関わって、もう少しお教えいただきたいとお尋ねするようなこともあると思いますが、その節は宜しく願いいたします。

